公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

Hem21 NEWS

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和2年（2020）1月 Vol. 79

CONTENTS

❶～❷ 第9回自治体災害対策全国会議を開催
❸ 研究員レポート
❹ 情報ひろば
❺ HAT神戸掲示板
❻～❽ 人と防災未来センターMiRAi

第9回自治体災害対策全国会議を開催

9月19日（木）、20日（金）に第9回自治体災害対策全国会議を開催しました。この会議はその都度異なる形で襲ってくる大災害に対処するため、全国の自治体職員等が知見を共有し、備えを高めようと平成23年度から毎年開催しています。今回は「伊勢湾台風60年～大規模風水害等への備え」をテーマに、伊勢湾台風60年シンポジウムを兼ねて、三重県四日市市において開催し、自治体職員など全国から約270人が参加しました。

初日は、井戸敏三・実行委員会委員長（兵庫県知事）の主催者あいさつ、森智広・四日市市長による開催地あいさつに続き、伊勢湾台風60年記念対談を行った。まず、三重県の鈴木英敬知事が伊勢湾台風を教訓とした三重県の災害に対する取り組みなどを報告し、それをベースに河田惠昭人と防災未来センター長と対談した。そこでは、過去に学び、そして進化した災害に対応するためには、防災知識の蓄積や災害に特化した人材の育成が重要であること、また復旧・復興を早めるためには事前準備が必要になることなどが議論された。

次に、津波・高潮対策に造詣が深い平石哲也・京都大学防災研究所教授から、「大規模風水害に学び備える」と題した基調講演があった。平石教授は、江戸三大水害や2005年のアメリカのハリケーン・カトリーナ、昨年の台風第21号の高潮・高波災害などの事例を紹介し、災害に対抗するには、ハードとソフトの両面から、最悪を想定してできることをすべて実施する必要があると訴えた。

続いて基調報告「平成30年7月豪雨災害への対応と教訓」では、広島県熊野町の三村裕史町長より平成30年7月豪雨災害の反省と課題、それを踏まえた現在の災害復旧、防災・減災対策の報告があり、今後は一人も犠牲者を出さないという強い決意を述べられた。

1日目の締めくくりとして、当会議の企画部会長である室崎益輝兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長・教授が中間報告をした。ここ数年の災害では、過去の教訓が生かされず知らないが故の過ちを犯している。知る努力、知らせる努力が重要であること、現在の災害への危機管理の重要なポイントとして、自然の凶暴化だけではなく、人々の心構えや精神、意識が弱くなっており、それにメスを入れない限り、災害対応の改善は難しいことを認識すべきと述べられた。

2日目は、まず特別報告「大規模風水害への対策について」と題して国土交通省水管理・国土保全局河川環境課　相澤竜哉課長補佐から、国土交通省の取り組み状況の紹介があった。堤防の強化などハードの整備に加え、住民に水害リスク等の情報を伝え、行動してもらうためのプロジェクトの推進、企業への浸水被害防止に向けた取組事例集やマイタイムラインの実践ポイントブック作成などソフト対策を合わせながら、今後も水害による被害を防ぐための防災・減災対策を総合的に推進していくとした。

続いて、パネルディスカッション第1部「大規模風水害等における避難対策」（座長：川口淳・三重大学大学院工学研究科准教授）が行われた。①那智勝浦町からは、紀伊水害後に作成したマイマップなど早期避難に向けての対策、②四日市市からは住民の参画による地区ごとの新たなハザードマップの作成、③茨城県からは平成27年の東北豪雨を受け、広域避難計画を策定したことなどの報告があり、議論が交わされた。座長は、「風水害時には、危険を知り情報を共有し、逃げることが重要である。防災に対して目標を持ち、訓練を継続して実施するなど、行政、住民それぞれが出来ることに一丸となって取り組むべき」と総括した。

その後、パネルディスカッション第2部「大規模風水害等からの社会経済機能の確保」（座長：渡辺研司・名古屋工業大学大学院工学研究科教授）では、①大阪府からは多機関が連携したおおさかタイムラインづくり、②香川地域継続検討協議会からは、DCP（地域継続計画）の取り組み、③みえ企業等防災ネットワークからは、中小企業等の災害時に備えた取り組みなどについて

報告があり、議論が交わされた。座長は、「大規模水害時の社会経済機能の確保は、自治体、重要インフラ事業者、企業などの組織がいかに連携していくかがキーになる。その連携の実効性を担保するためのモチベーションやインセンティブをどのように確保していくかが課題である」と述べた。

最後に、両座長と当機構の五百旗頭真・理事長、室﨑益輝・研究科長による総括が行われ、2日間の会議を振り返り、自然の凶暴化と社会の脆弱性に対して、地域が目標と限界を共有し、官民連携をどう作り上げるかが重要であるとした。また、「防災の日常化」が大切であるとして、地域のお祭りを活用した取り組みなども紹介された。

大規模な災害が頻発する中で、防災・減災対策の最前線にある自治体として、大規模風水害などから命を守るための迅速、的確な避難の徹底や早期の復旧・復興に向けた事業継続方策など、過去の災害の経験や教訓に学び今後のあるべき取り組み方策について考え、情報を共有することができた2日間となりました。

《開催概要》

会　　場：プラトンホテル四日市（三重県四日市）
参加人数：自治体職員ほか約270名（2日間延べ約390名）
主　　催：自治体災害対策全国会議実行委員会
共　　催：三重県、三重県みえ・防災減災センター、（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター、読売新聞社
後　　援：全国知事会、全国市長会、全国町村会、指定都市市長会、内閣府政策統括官（防災担当）、消防庁、国土交通省、兵庫県、関西広域連合、四日市市

第32回地方シンクタンクフォーラムの開催

地方シンクタンク協議会（代表幹事：金井萬造）は、（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構を含めて全国57のシンクタンクが会員となり、研究交流活動を展開しています。その事業の一つとして、地域研究の質的向上や地域活性化の一助とするため、毎年1回、全国各地で「地方シンクタンクフォーラム」を開催しています。

第32回を迎える今年度は、兵庫県神戸市において、「魅力あるまちづくり～スマートなまちづくりへの取り組みから～」をテーマに、11月29日（金）から30日（土）の2日間にわたり、全国から約70名が参加して開催されました。

初日は、ラッセホールを会場に講演やパネルディスカッションを行いました。

内閣府地方創生推進事務局の得田啓史参事官が、①人口減少や東京一極集中　②進学率や地元就職率、女性の働き方　③都市の外延化や中心市街地のスポンジ化など都市圏の変化　④集落生活圏や地域運営組織づくりなど、地方創生の現状を解説。そうした点を踏まえ、①地方創生版・3本の矢（情報支援、人材支援、財政支援）②第2期（令和2～6年度）のまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定スケジュールと方向性を中心に、地方への支援策や今後の展開について説明されました。

続いて、会員団体の研究員等のすぐれた論文に対して総務大臣賞などを贈呈する「論文アワード2019」表彰式を執り行い、高市早苗総務大臣よりビデオメッセージをいただきました。

このあと、東海大学文化社会学部広報メディア学科の河井孝仁教授が、「シティプロモーションによる魅力ある地域づくり」と題して基調講演。プロモーションの目的は人々の地域参画総量の拡大にあり、そのためのロジックモデルを提示するとともに、地域魅力創造サイクルによるブランドの形成やそれを支えるメディア活用戦略について述べられました。

講演に続いて、河井教授をコーディネーターに、神戸市企画調整局の松崎太亮ICT担当部長、（株）地域計画建築研究所の中塚一副社長を交えてパネルディスカッションを展開。松崎部長は、ICT・データを活用した公民連携に関する神戸市の取り組み事例、中塚副社長は、多様な主体の連携による伊丹郷のまち育ての取り組み事例を紹介し、魅力あるまちづくりに向けて活発な議論が交わされました。

翌日は、阪神・淡路大震災から25年を前に、人と防災未来センターなどを見学。色鮮やかな木々がまちを彩るなか、好天にも恵まれ充実した2日間となりました。

南海トラフ地震に備える政策研究
－将来社会を見据えた復興のあり方を考える－

主任研究員 稲見 直子

研究目的

南海トラフ巨大地震に対していかに備えるか。今年度から本格始動した本研究プロジェクトは、今後30年以内に70～80%の確率で発生すると言われる南海トラフ地震に備えるための政策提言を行うことを目的としている。特に、人口減少や少子高齢化が進み、今後人的・物的リソースの縮減が予想される日本社会において、社会の変容に応じた事前・事後の復興のあり方を考えることは喫緊の課題である。本調査研究では、南海トラフ地震に備えた政策のあり方について、「国と社会」及び「被災社会」の双方の観点から検討し、国や兵庫県を含む地方自治体、さらには企業やNPO/NGOに対して具体的な政策提言を目指す。

研究体制

本研究プロジェクトには、防災計画や都市防災などの工学から行政・地方自治を専門とする社会科学まで多分野にわたる専門家が結集し、学際融合的に研究に取り組んでいる。研究を進めるにあたっては、3つの部会を立ち上げ、うち2つの部会についてはさらに複数の分科会を置きそれぞれのテーマに沿って研究を進めている。具体的な研究体制及び研究内容は下記の通りである。

1. 災害シナリオ部会

本部会では、内閣府中央防災会議が示す南海トラフ地震の被害想定を批判的に検証し、電力問題など地震発生後に生じる課題を整理した上で、様々な地震発生ケースを踏まえた多様な災害シナリオを検討する。これらを基に、法整備や組織・体制・訓練等の事前の対応策を国や地方自治体に対して提言する。

2. 社会システム部会

⑴復興組織・体制分科会

災害シナリオ部会などの研究成果を前提に、南海トラフ地震に備える国や地方自治体の体制を検討するのが本分科会の役割である。特に平時と非常時の切り替えに留意し、中央政府、地方自治体、民間企業など異なるアクターの連携に焦点を当てて研究を進める。

⑵官民連携分科会

従来の災害復旧・復興施策は行政が中心となって担われてきたため、企業やNPO/NGOなどの民間アクターの位置づけが曖昧にされてきた。本分科会では、こうした民間アクターが担う機能を明確にし、行政との連携が可能になるシステム構築について、事前復興計画を実践的に策定し考察する。

⑶災害リスクファイナンス分科会

南海トラフ地震は、日本社会の経済活動を長期的に停止ないしは停滞させるだけでなく、震災復興に対して莫大な財政負担をもたらすことが予測されている。本分科会では、南海トラフ地震による財政的影響を明らかにするほか、災害に対するリスクファイナンスの仕組みについて、海外の事例も参考にしながら検討する。

3. 災害リスク軽減部会

⑴個人とコミュニティ分科会

本分科会では、南海トラフ地震によって個人やコミュニティにもたらされる被害を把握し、保健・医療、福祉、教育分野を中心に、被害を抑えるための事前の対策、ならびに災害後の緊急・復旧・復興施策について検討する。

⑵都市と住宅分科会

本分科会では、南海トラフ地震発生後の都市機能や住宅被害を検討し、それらを再建していく過程で起こりうる課題を各分野の知見を組み合わせて整理する。そのうえで、住宅再建制度や防災都市インフラ整備、都市計画等において地域社会レベルでの事前対応と事後復興のあり方について提言を行う。

期待される成果

本格的な研究がスタートした今年度から、各部会・分科会とも研究会を定期的に開催し、それぞれのテーマに応じた課題の整理と復興政策のあり方について活発に議論を行っている。研究会では、南海トラフ地震によって被災が想定されている地域の視察のみならず、東日本大震災の被災地で実際に活動していた実務家・専門家を招いて話を聞くなど、様々な観点から知見を深め、具体的な復旧・復興のあり方を検討している。研究成果については、各部会・分科会ごとに毎年度中間報告を行うほか、研究最終年度となる令和3年度末には最終報告書をとりまとめる予定である。

情報ひろば

Information

こころのケアセンター

令和元年度兵庫県音楽療法士認定証交付式・記念講演会・実践活動発表会　参加者募集

- **日時**＝令和2年3月5日(木)13:30～16:30
- **場所**＝兵庫県こころのケアセンター・大研修室
- **プログラム**

Ⅰ 兵庫県音楽療法士認定証交付式(13:30～14:00)

Ⅱ 記念講演会＜講演＆ピアノ演奏＞(14:15～15:40)
「精神医学と音楽療法 ～音楽が身体と心にもたらすもの～」
馬場 存(ばば あきら)氏
精神科医・音楽療法士、作曲家・ピアニスト
〈プロフィール〉

高校在学中よりピアノを独学。慶應義塾大学医学部在学中から放送業務用楽曲の作曲・演奏に従事。卒業後、精神科研修ののち、慶應義塾大学大学院で音楽幻聴について研究。大学院修了後、村井靖児氏の下で音楽療法を学ぶ。CDリリースやCM曲(昭和産業、京セラ等)の作曲、ライブ等の音楽活動に並行して、精神科病院等にて精神医療に携わり、音楽療法を実践。医学博士。日本精神神経学会認定精神科専門医・指導医。精神保健指定医。日本音楽療法学会認定音楽療法士。駿河台大学心理学部教授および東邦音楽大学特任教授。通算7枚目の最新ピアノソロアルバムは、『精神科医・音楽療法士が奏でる 心をほぐす 癒しのピアノ・サプリ』(キングレコード　2019)、6枚目は、『精神科医・音楽療法士が奏でる おだやかな眠りをいざなうピアノ・サプリ』(キングレコード 2019)など。
最新の単著は『音楽に癒され、音楽で癒す－音楽療法と精神医学、音楽創造－』(中外医学社、2018)、共著は『ケースに学ぶ音楽療法Ⅱ』(岩崎学術出版社、2017)『医学的音楽療法－基礎と臨床－』(北大路書房、2014)『音楽療法カンファレンス』(北大路書房、2015)など。

Ⅲ 実践活動発表会(今年度の新規認定者)(15:50～16:30)

- **定員**＝150人(先着順)入場無料
- **主催**＝兵庫県、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
- **申し込み方法**＝所定の参加申込書※に必要事項を記入の上、郵送、FAXまたはEメールで下記までお申込みください。
※兵庫県こころのケアセンターのホームページからプリントアウトできます。
- **申し込み・問い合わせ**
兵庫県こころのケアセンター 事業部事業課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL:078-200-3010　FAX:078-200-3017
e-mail:jigyou556@dri.ne.jp
http://www.j-hit.org/

研究戦略センター

研究情報誌「21世紀ひょうご」第27号発行のお知らせ

現代社会の課題を的確に捉え、専門的立場から課題を分析・紹介し、具体的な提案を行う情報誌です。第27号では、「広域経済圏の活性化戦略」をテーマに、都市・地域の活性化方策を探るとともに、国の地方創生政策、自治体の地域・産業政策の再検討など地域経済復活への道筋を考えます。

内容

■**巻頭言**　「幻のビデオ講演－わが闘病の怪奇談」
(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長・研究戦略センター長
御厨 貴

■**特集**　「広域経済圏の活性化戦略」
- 戦略的広域経済圏の形成と地域の再生
－地域創生進化の構図を考える－
兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授　加藤 恵正
- 産業集積と地域　～1990年代以降の関西地域における変化
兵庫大学副学長　田端 和彦
- 地方自治体による産業政策の経済効果と広域行政
関西学院大学学長補佐・経済学部教授　上村 敏之
- 立地適正化計画にみる広域連携
大阪大学大学院工学研究科教授　澤木 昌典
- サテライトオフィスの立地・活用と働き方改革
大阪経済大学経済学部教授　梅村 仁
- イングランドの都市間連携と権限委譲に見る地域政策：
city-regionと合同行政機構に関する事例分析
文教大学経営学部講師　青木 勝一

■**トピックス**
○第20回アジア太平洋フォーラム淡路会議(講演要旨)
○平成30年度研究成果報告会
- 地域コミュニティの防災力の向上シンポジウム
－みんなが＜助かる社会＞の構築をめざして－
- 少子高齢化社会の制度設計
－年齢で人生を区別しない社会並びに子供を生み育てやすい社会の実現に向けて－

- B5判　第27号約120ページ
執筆者等詳細については、当機構のホームページをご参照ください。
http://www.hemri21.jp/the21_hyogo/index.html
- **発行**＝年2回
- **購読料**＝800円(送料別途)
※定期購読をされる場合は、年間購読料1,600円(送料込み)
- **申し込み・問い合わせ**
研究戦略センター
TEL:078-262-5713　FAX:078-262-5122
Eメール:gakujutsu@dri.ne.jp

コミュニティ型ワーキングスペース
「ON PAPER」はじめました!

ON PAPER
https://onpaper.jp
ONPAPER 検索

兵庫県立美術館

特別展「ゴッホ展」

1880年、27歳の頃に画家を志したフィンセント・ファン・ゴッホ(1853-1890)は、画業の初期にハーグ派の影響を受けました。街の近辺で出会う身近な風景を描き、対象を正確に写し取るのではなく、示唆に富んだ筆致で仕上げたハーグ派の絵には、時としてスケッチのような趣が残されています。このように、細部ではなく印象を重視した手法をファン・ゴッホはまず身に着けました。その後彼はパリに出ると、印象派が打ち出した鮮やかな色遣いに出会ってその虜となり、色の表現力を学び、実践するようになります。

フィンセント・ファン・ゴッホ《糸杉》1889年6月 油彩・カンヴァス 93.4×74cm メトロポリタン美術館 Image copyright © The Metropolitan Museum of Art. Image source: Art Resource, NY

本展では、このようにファン・ゴッホの画業の初期から、印象派の洗礼を受けて独自のスタイルを確立するまでを追います。7年ぶりの来日となる《糸杉》(メトロポリタン美術館蔵)や、ファン・ゴッホの「最も美しい作品のひとつ」と称される《薔薇》(ワシントン・ナショナル・ギャラリー蔵)など約50点のファン・ゴッホ作品をはじめ、マウフェ、マリス、モネ、セザンヌ、ゴーギャンなどハーグ派・印象派の巨匠たちの作品を多数ご紹介します。

フィンセント・ファン・ゴッホ《薔薇》1890年5月 油彩・カンヴァス 71×90cm ワシントン・ナショナル・ギャラリー © National Gallery of Art, Washington D.C., Gift of Pamela Harriman in memory of W. Averell Harriman

■会期=1月25日(土)～3月29日(日)
■観覧料=一般1,700円、大学生1,300円、70歳以上850円、高校生以下無料

2019年度 コレクション展Ⅲ
小企画「塩売りのトランク マルセル・デュシャンの『小さな美術館』」

マルセル・デュシャンの《トランクの中の箱》は、デュシャン自身の主要作品のミニチュアや写真複製等で構成されたマルチプル作品です。それ自体も作品の一部である革製の「トランク」に全ての構成要素を収納することが可能で、デュシャン芸術が凝縮した「持ち運びできる、小さな美術館」(デュシャン)として作られています。この小さな箱を「持ち運びできる、小さな美術館」と形容したデュシャンの言葉を文字通り受け取るひとつの方法として、この企画では、当作の個々の要素(80アイテム)の提示を試みます。

今村 源《あるカタチ やかん》2001年 アルミ、プラスチック

特集「もうひとつの日常」

ふだんわたしたちがなにげないものとして認識している「日常」は、しかし戦争や災害などによって失われたとき、それ自体がかけがえのない存在として思い起こされます。美術家はそうした日常やあるいは非日常のそれぞれで表現活動を行い、美術館は機会があるごとにそれらを展示、紹介し、さらにはコレクションしてきました。

■会期=～3月1日(日)
■観覧料金=一般500円、大学生400円、70歳以上250円、高校生以下無料

◎休館日=月曜(ただし1月13日、2月24日は開館、1月14日、2月25日の火曜日は休館)、年末年始およびメンテナンス休館(12月31日(火)～1月10日(金))
◎開館時間=10時～18時(金曜・土曜は20時まで)
※入場は閉館の30分前まで
TEL 078-262-0901(代) https://www.artm.pref.hyogo.jp/

JICA関西

◆食べることから始める国際協力! JICA関西食堂の月替わりエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。毎月の月替わりエスニック料理もご好評いただいております!ぜひ、お気軽にお立寄りください。

写真は12月の被災地ミックスプレート

JICA関西食堂
▶https://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html
■営業時間=(昼)11時30分から14時まで
(夜)17時30分から21時まで
※各終了30分前ラストオーダー
■定休日=年中無休(年末年始を除く)

月替わりエスニック料理の詳細と写真はこちら→

◎問い合わせ
JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西センター)総務課
TEL 078-261-0346 FAX 078-261-0342
Eメール jicaksic-event@jica.go.jp
その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!
▶http://www.jica.go.jp/kansai/

日本赤十字社 兵庫県支部

日本赤十字社兵庫県支部は、今年で創立130周年を迎えました。皆様のご支援のもと、災害救護、国際救援、講習普及、青少年赤十字、ボランティア活動などの「いのちと健康を守る」事業に取り組んでいます。

救急法講習やボランティアにご興味のある方はぜひお問い合わせください。

救うことを、つづける

問い合わせ先 【講 習】078-241-1499
【ボランティア】078-241-8922

いのちと健康を守る赤十字活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。

■郵便局・ゆうちょ銀行からご協力いただけます
口座記号番号 01110−0−1136
口座加入者名 日本赤十字社兵庫県支部
※窓口で取り扱いの場合、振込手数料は無料です

◎問い合わせ
TEL 078-241-8921
赤十字 兵庫 検索

日本赤十字社 兵庫県支部 Japanese Red Cross Society

令和元年度秋期 災害対策専門研修マネジメントコースの実施結果

当センターでは、地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14年度から実施しています。当該コースは、災害対策実務の中核を担う人材を育成するため、阪神・淡路大震災の教訓を学習することを重点に、最新の研究成果も取り入れた体系的・実践的なカリキュラムです。これまでに、延べ3,172人の方々が受講され、受講生から高い評価を得ています。今回の秋期研修においては、中堅職員を対象としたエキスパートA及びエキスパートBの2コースを実施しました。

コース別の参加人数、修了者数は下表のとおりですが、エキスパートAコースにおいては、開催直前に大型の台風第19号が上陸したため、被害を受けた自治体からの参加者数名が、災害対応のために欠席されました。

アンケートでは、「研修メニューが非常によく考えられており、大変有意義だった。」「多くの現場経験を持たれている講師から生の声を聞き、自所属に何が足りないか、どう反映させるべきかイメージしながら受講することができた。」「多方面から災害対応を考え、学ぶことができた。」「災害全般に係る概論及び各論により災害対応の全体を学習できたのが良かった。」「様々な分野の最新情報及び研究情報が聞けて、非常に参考になった。」「直接の担当ではない業務も含め災害対策について幅広く学ばせていただき感謝している。」「防災が非常に多岐にわたるものであることが良く分かった。」「自分自身が災害初期における対応にしか目を向けていなかったことを痛感した。」等の意見をいただいています。講義、演習による知識向上だけでなく、受講者間の交流を通じて防災担当者の全国的なネットワークが一層強まりました。

コース名	日程	参加人数	修了者数
エキスパートA	10月15日(火)～18日(金)	22人	22人
エキスパートB	10月 8日(火)～11日(金)	28人	28人
合計(延べ)		50人	50人

「ALL HAT 2019 with 赤十字 HAT ふれあいフェスタ」を開催しました

HAT神戸全体の防災訓練「ALL HAT」は、HAT神戸の一体化を高め、安心・安全なまちづくりやにぎわいの創出、防災意識の向上を図るため、地元のまちづくり協議会、学校、関係機関等で構成する「HAT神戸防災訓練実行委員会」と地元の防災関係機関や企業などの協力を得て、平成28年度から毎年開催しています。

「赤十字HAT防災フェスタ」会場

4回目となる今年度は、10月26日(土)に、日本赤十字兵庫支部の「赤十字 HAT ふれあいフェスタ」と合同で開催しました。

午前9時15分に大地震が発生すると想定し、防災無線やスマートフォンアプリからのお知らせに従い、家庭や職場などそれぞれの場所でシェイクアウト訓練を一斉に行いました。また、その後、住民が主体となって「安否確認トレーニング」などの防災訓練も、それぞれの自治会や居住マンションで行われました。

午前10時からは、防災や減災について楽しく学べるブースが並ぶ「減災チャレンジ！体験ラリー」を開催。今回は「赤十字 HAT ふれあいフェスタ」会場である神戸赤十字病院兵庫県災害医療センターと日本赤十字社兵庫県支部兵庫県赤十字血液センターの「日赤ゾーン」が加わり、昨年まで以上に充実したプログラムを提供することができました。

シェイクアウト訓練(屋外ひろば)

河田センター長あいさつ

午前11時50分からは、神戸市消防局灘消防署と神戸市灘消防団による「消防デモンストレーション訓練」を人と防災未来センター東館の東側壁面を利用して実施。火災発生による救助・脱出、消火放水訓練の実演が行われ、多くの方々がその様子に見入っていました。

正午過ぎからは、炊き出しや防災食をテーマとした試食プログラムがスタートし、東館南側のレストスペースで休憩をしながら試食を楽しむ参加者の姿が多く見られました。

今回も、神戸市立渚中学校防災ジュニアリーダーをはじめ地元住民の皆さんにもボランティアとしてブース運営などでご活躍いただき、様々な形で地域の方々に参加していただける充実した防災訓練イベントとなりました。

消防デモンストレーション訓練

「河田文庫」を開設しました

阪神・淡路大震災25年を迎えるにあたり、資料の収集・保存・発信の取り組みの一環として、河田センター長が長年にわたり収集してきた自然災害に関する資料 約3,000点を、研究者をはじめ多くの方々に利用いただくため、令和元年12月13日、人と防災未来センター西館５階に「河田文庫」を開設しました。

「河田文庫」に収められている資料は、河田センター長が長年関わってきた防災・減災に係る学術研究会やシンポジウム等に関するもので、書店や図書館では入手・閲覧できない貴重な資料です。

これらの資料を一室（隣の部屋）にまとめて開架し、利用者が自由に閲覧できるようにしております。

皆さんも人と防災未来センターにお越しの際には、ぜひ「河田文庫」にお立ち寄りください。

震災資料のメッセージ「手作り表札で広がる復興の輪」の実施について

「震災資料のメッセージ」は、人と防災未来センターに寄贈された一次資料（震災当時に被災したり、使用された現物）を、年度ごとのテーマに沿って紹介するスポット展示です。

本年度後期は「手作り表札で広がる復興の輪」をテーマとしました。展示する震災資料を紹介します。

1.期　　間：令和元年11月26日（火）～令和2年5月31日（日）

2.展示場所

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
西館３階（有料ゾーン）

3.展示内容

阪神・淡路大震災では、約48,300戸の応急仮設住宅が建設されました。多くの仮設住宅は、表札がなく、誰が住んでいるのか一見しただけではわかりませんでした。そこで、震災ボランティア活動をしていた長岡照子さんは、カマボコ板やタンスの廃材など、身近な道具を使って表札を作り、仮設住宅の住民に配りました。色とりどりの表札は、多くの人の心を明るく和ませました。東日本大震災の際にも、長岡さんは、岩手県の仮設住宅に手作り表札を届けました。

手作り表札1
（資料番号　0000395-002001）

手作り表札2
（資料番号　0000395-002002）

手作り表札配布用看板
（資料番号　0000395-002003）

（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
観覧案内・予約／TEL 078-262-5050　http://www.dri.ne.jp/

開館時間

9時30分～17時30分（入館は16時30分まで）
※7月～9月は9時30分～18時（入館は17時まで）
※金曜、土曜は9時30分～19時（入館は18時まで）

入館料金

大　人	大学生	高校生／小・中学生
600円（450円）	450円（350円）	無料

［障がい者］

大　人	大学生	高校生／小・中学生
150円（100円）	100円（50円）	無料

［70歳以上の高齢者］　300円（200円）

※（　）は20人以上の団体料金
※毎月17日（休館日の場合は翌18日）は入館無料

休館日

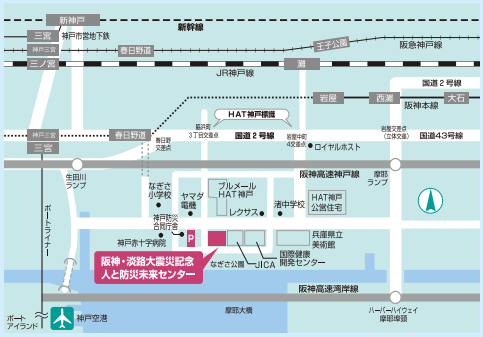
毎週月曜（月曜が祝日の場合は翌平日）、12月31日と1月1日
※ゴールデンウイーク期間中（4月29日から5月5日まで）は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交　通

鉄道
- 阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- JR「灘」駅南口から徒歩12分
- 阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

バス
- 三宮駅前から約15分

車
- 阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- 阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- 阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分



●有料駐車場あり　●バス待機所（予約制／無料）あり

令和元年度資料室企画展「阪神・淡路大震災から25年」の実施について

人と防災未来センター資料室では、収蔵している震災資料を活用した企画展を、年に一度開催しています。今年度は、「阪神・淡路大震災から25年」と題し、12月13日(金)から3月8日(日)まで展示を行います。

1 期　　間 令和元年12月13日(金)～令和2年3月8日(日)
2 展示場所 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター西館5階資料室(無料ゾーン)

3.展示内容

今回の企画展は、次のテーマで開催します。

企画1　河田文庫オープンまでの道のり
企画2　被災地のナイチンゲール～黒田裕子が遺したもの～

※チラシもご参照ください。

企画1　河田文庫オープンまでの道のり

7ページで紹介したとおり、人と防災未来センター西館5階に河田文庫を開設しました。

ついては、河田文庫の開設を記念して、同文庫の趣旨や内容、開設に至るまでの資料の整理作業等を紹介する企画展を開催します。

企画2　被災地のナイチンゲール～黒田裕子が遺したもの～

阪神・淡路大震災時から応急仮設住宅の被災者に寄り添い、支援し続けた黒田裕子さん。平成26年に亡くなられるまで、被災者支援活動を続けてこられました。

看護師だった黒田さんが、なぜ病院を辞めて被災者支援に身を投じたのか。仮設住宅では、どういったことに気を配りながら支援を行っていたのか。黒田さんの思想の核心は何なのか。

震災資料専門員と研究員が協働で、黒田さんの活動の軌跡をたどり、今後の被災者支援に活かすため、平成30年9月に寄贈いただいた資料をもとに研究を行っています。企画展では、その資料の一部を黒田さんの活動年表とともに公開します。

4.問い合わせ先：

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター西館5階 資料室
〒651-0073　兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
TEL：078-262-5058　FAX：078-262-5062
※資料室はどなたでもご利用いただけます。(無料)
開室時間　9：30～17：30
閉室日　毎週月曜日
(月曜日が祝日または振替休日の場合は翌平日)

※震災資料のメッセージ「手作り表札で広がる復興の輪」、令和元年度資料室企画展「阪神・淡路大震災から25年」、いずれの展示についても、詳細については資料室までお問い合わせください。

案内チラシ

Hem21NEWS vol.79
令和2年1月発行
(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
http://www.hemri21.jp/

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部
TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●人と防災未来センター
TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●こころのケアセンター
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

●研究戦略センター
▶研究調査部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593
▶学術交流部
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください